

仲間と認め合い 仲間と楽しむ 授業づくり

伊東 久美子 岡本 有未 齋藤 大地 鈴木 和也
長谷川 智子 沼澤 聡子 野原 隆弘 仲野 宏樹 山口 知子
小林 巖 澤 隆史（東京学芸大学）

I. はじめに

1. 研究のテーマと目的

今年度は全校研究テーマ「主体的・協働的な学びを育む支援～幼稚部段階から高等部段階における授業の創造～」のもと、「仲間と認め合い 仲間と楽しむ 授業づくり」を中学部研究テーマとして掲げた。後述するが、過去3年間の中学部の研究において、中学部段階は思春期に入って他者との関係が広がり、複雑化していく年代にあり、その年代において仲間に対して肯定的・多角的に「認め」、あるいは逆に仲間から「認め」られ、互いに「認め合い」ながら活動することや、自分や仲間の興味・関心を共有し、ときには仲間のために活動して、共に活動を「楽しむ」ことは、中学部段階における「主体的・協働的な学び」を育む上で重要であると確認されている。

そこで、今年度は学部の研究の目的を

- 1) 中学部段階における「主体的・協働的」に学ぶ姿を明確にすること
 - 2) 学校全体の研究の目的である『『主体的・協働的な学びを育む授業』のポイント』の作成を行うこと
- の2点とし、授業づくり・授業研究会を中心とした実践研究を進めてきた。

2. 研究方法

研究方法は以下の2点である。

- 1) 4年目のまとめとして、過去3年間の学部研究を振り返り、その研究成果としての「授業づくりの工夫」を明らかにして、今年度の授業づくり全体やポイントの作成に反映する。さらに、全校の定義と照らし合わせながら「中学部段階における主体的・協働的な学びの姿」を明らかにする。
- 2) 上記の授業づくりの工夫や主体的・協働的に学ぶ姿をもとにした授業研究会を通して、『『主体的・協働的な学びを育む授業』のポイント』を抽出し、作成する。

3. 過去3年間の研究について

ここでは、過去3年間の研究成果を簡単に振り返りながら、今年度の研究にかかわる授業づくりの工夫・改善点を抽出したい。

平成27年度は「家庭と学校をつなぐ『くらし』の授業」（全校テーマ「ICTを活用した学習活動の充実」）のテーマのもと、「くらし」の授業実践を行い、研究成果としては、①タブレット端末を利用して自身の成長を主体的に振り返り自己肯定感を育むこと、②自分と仲間を比較し、その相違を学びの資源とすること、の2点が挙げられる。

平成28年度は「個別教育計画の取り組みから、主体的・協働的な学びを育む授業づくりへ」（全校テーマ「個別教育計画を活かした授業づくりから」）のテーマのもと、「総合学習」の授業実践を行い、研究成果として、①個別教育計画の分析により、個別教育計画の目標を反映させた授業の成果を家庭と学校双方で承認、賞賛される経験の重要性、②①による自己肯定感を高める必然性の再確認、③総合学習における体験的活動として校外学習を新たに設定、の三点が挙げられる。

平成29年度は「『いいね』が育てる総合学習の学びと深まり」（全校テーマ：学ぶ意欲を高め、学びを深める評価場面の工夫）のテーマのもと授業実践を行い、研究成果として、①生徒同士による相互評価場面の設定、②生徒にとって分かりやすい評価基準の設定、が挙げられる。

上記のような授業づくりにおける成果のほかに、下記のような「主体的・協働的に学ぶ」姿が確認された（表1）。

ICTを活用し、課題や方法を視覚化・比較できるようにして、自己選択をする姿や主体的に考える姿が多く引き出すことができた。また、自身の学びを視覚化することで、学習の成果を振り返り、客観的で確かな自己評価ができるようになり、自己肯定感を高めることができた。仲間の学びの様子についても視覚化することで、仲間に対する興味・関心を高め、肯定的に評価し、さらに自分もやってみようという主体的に取り組む姿につなげることができた。

個別教育計画の研究においては、自己肯定感がすべての学習活動の土台となり、上述のような主体的・協働的に学ぶ姿が見られるようになることが確認された。授業場面のみならず、日常的な学級経営においても、自分や仲間を認め合い、肯定的に評価できるような土台づくりが大切である。

表1 過去3年間の研究より、中学部段階における「主体的」・「協働的」な学びの姿

主体的	協働的
<ul style="list-style-type: none"> ・課題や方法を選択して学習する姿 ・自分と他者の決定や考えを比較する姿 ・課題や題材について積極的に考えたり選択したりする姿 ・周囲から承認されることで自己肯定感を高め、学習に向かう姿 ・視覚支援を受けたり ICT 機器を使ったりして、自分の経験や学習を振り返る姿 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間と一緒に活動したり、協力したりする姿 ・互いの取り組みを認め合う姿 ・仲間がやっているから自分もやってみようという姿 ・自分とは違う他者のやり方を取り入れる姿 ・生徒同士が考え、相談する姿 ・仲間を肯定的に評価する姿

Ⅱ. 経過と事例

1. 自己肯定感を高め、認め合う集団の基礎づくり 1年生の学級経営より

平成28年度の研究では「中学部段階の個別教育計画では、生徒自身がより主体的に自分の重点課題に向き合えるように目標を設定し、支援内容・方法・指導場面を計画してきた。個別教育計画の支援方法で「取り組んだ成果を保護者、教員、学級の仲間からしっかりと認められる」経験を大切に積み重ねていることは、一人ひとりの自己肯定感を高め、お互いを認め合う姿を育み、主体的・協働的な学びにつながる」とされた。自己肯定感を高め、お互いを認め合う基礎として、普段の学級経営は欠かせない。

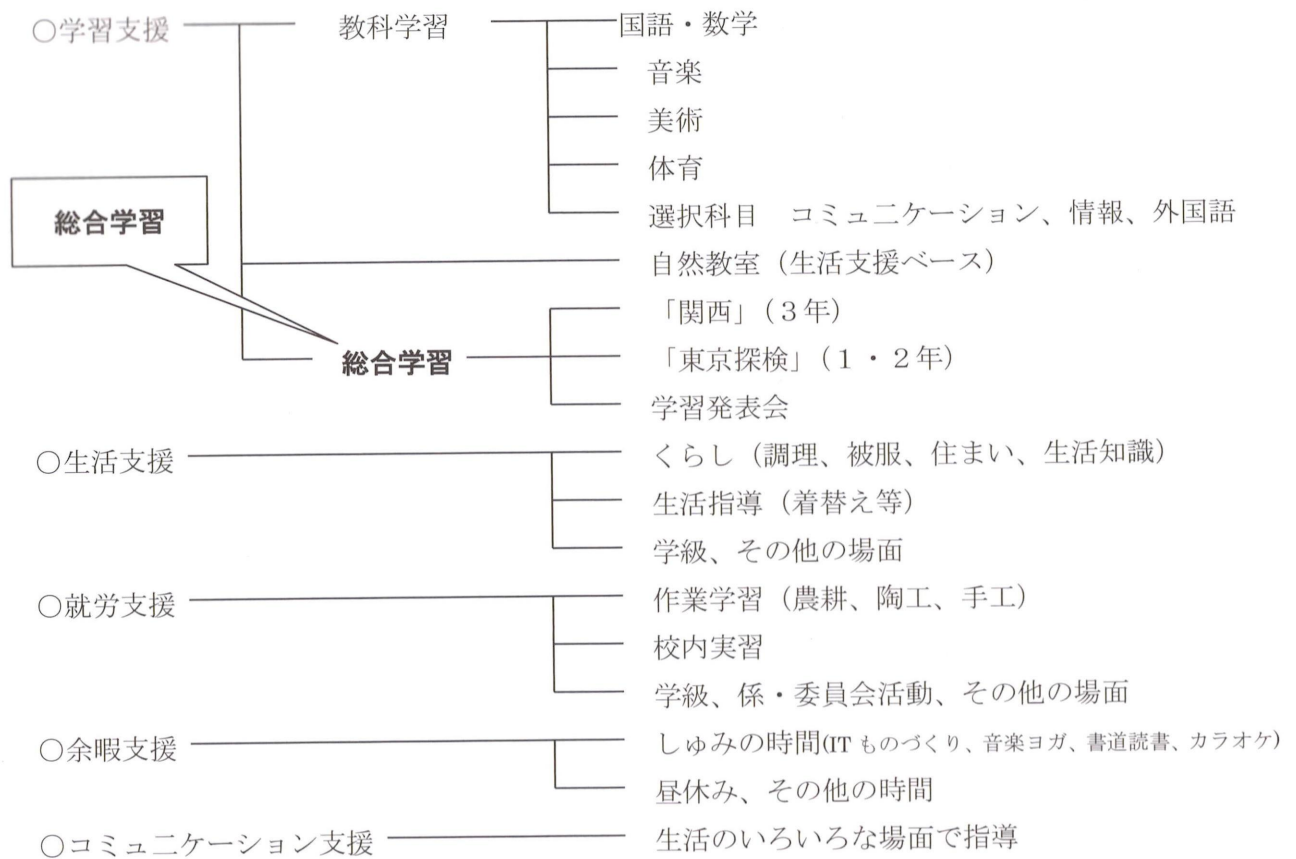
ここでは、1年生の学級経営を紹介したい。今年の1年生は本校小学部からの進学者3名に中学部からの入学者4名を加えた、男子2名、女子5名の学級である。当然ながら7名の特性・個性は違うものであるが、それらを超えてお互いを認め合う（中学部版ポイント「(5) お互いを認め合う関係を大切に」）集団となるため、教員は支援者・仲介者・代弁者としての役割を求められる。1年生の学年集団は女子が多かったこともあり、年度当初は恥ずかしかったり、あるいは自分をよく見せようとしたりして、自己表出がうまくできないようであった。また、適切な表現や他者との関わり方についてもどのようにしたらよいか分からないようであった。そこで、まずは入学時のテスト・検査、日常生活における観察、成育歴や過去の指導歴をもとにした実態把握を丁寧に行い、それを指導者間で共通理解して支援にあたった。

具体的な学級経営の様子としては、まず一人ひとりの個性を肯定的に認めるようにし、その上でお互いの個性が認めることができるよう、言葉掛けや生徒の代弁を行う際に、その都度、肯定的な評価基準や評価方法を具体的な言葉や表現を用いて例示した。その成果として、教員に適切に理解されることで、必要以上に自分をよく見せようとせず安心して自己表出をしたり、過去の経験を素直に語ったりする姿が見られるようになった。また、仲間を肯定的に評価する基準が分かったことで、お互いの個性を超えて「〇〇さんは□□をがんばっているね」と仲間を評価したり、「〇〇さんはいま△△って気持ちなのかな」と教師の模倣をしながら仲間の気持ちを思いやったりする姿が増えてきた。さらに、認め合う集団となったことで、仲間の表出を模倣する姿も多くみられるようになった。帰りのホームルームの「頑張ったことの発表」において、「今日も一日お疲れ様でした。みんなゆっくり休んでください。明日は〇〇を頑張りましょう」と優しい言葉掛けする生徒がおり、この言葉掛けが学級に広まり、同様にお互いを思いやる言葉掛けが発表場面のみならず、日常の学級でも見られるようになった。

2. 総合学習（研究授業）の授業づくりより

具体的な授業例については事例集に載せてあるため、ここでは昨年度に引き続き研究授業に取り上げられた「総合学習」の授業づくりについて述べていきたい。本校では、「総合学習」を以下のように位置付けている（表2）。

表2 中学部の教育課程



また、学習支援は図1のように、「教科学習」と「方法学習」に大別して展開し、総合学習は「方法学習」として、主体的に生きるために、自分をよりよく理解し、自らものごとを解決したり意志決定したりする学習として授業を行っている。学習で扱う内容は、図2に示すように、

○主体的な在り方、生き方

・自己選択、決定 等

○ものの考え方、調べ方

・問題の解決方法 等

○自分への関心や理解の仕方

・自己概念・自己理解 等 である。

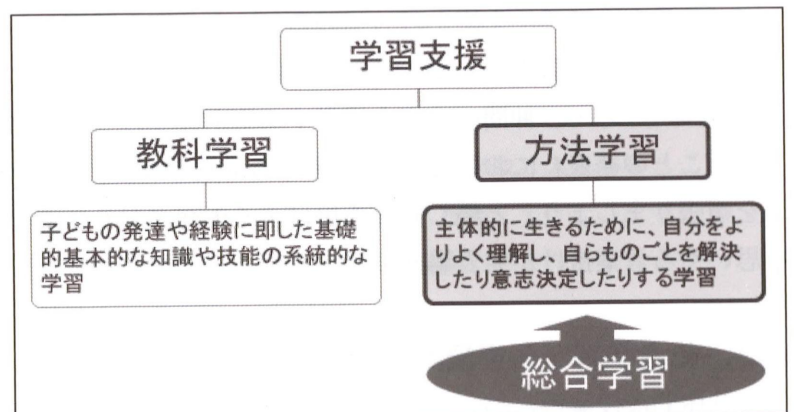


図1 教科学習と方法学習

主体的な在り方、 生き方	ものの考え方、 調べ方	自分への関心や 理解の仕方
<ul style="list-style-type: none"> 自己選択、決定 自己調整 	<ul style="list-style-type: none"> 問題の解決方法 計画の立て方 観察の仕方 情報の求め方 話し合いの仕方 相談の仕方 まとめ方 	<ul style="list-style-type: none"> 自己概念 自己理解 自己意識 自己肯定感

図2 方法学習で扱う内容例

中学部の総合学習は、1・2年の「東京探検」、3年の「関西」と、これらを土台にして全学年で行う「学習発表会」がある（図3参照）。

総合学習では、とすると、何となくテーマを選び、テーマに沿った本を見て調べる活動とし、その一部を書き写すことでまとめることとし、写した文章をそのまま読んで発表するという生徒の姿がありがちであるが、中学部では、方法学習の考えに基づき、「学習発表会」の学習を図4のように計画した。自分が興味あるテーマを決めるために、①調べたいカテゴリーを選び、②小グループで活動した後に、③自分のテーマを考えたり、選んだりして決める。また、④調べる学習を、本やインターネットも使いながら、現地で調べること（体験すること）を大切にする。調べた内容は、⑤ポスターにまとめて、⑥一人ひとりが発表する。この①～⑥の流れは、「学習発表会」の前に、「東京探検」「関西」で行っているのので、とてもスムーズに行うことができた。さらに、「学習発表会」では、⑦舞台発表の仕方を考え、⑧学習発表会本番（2月）に舞台上で発表する。

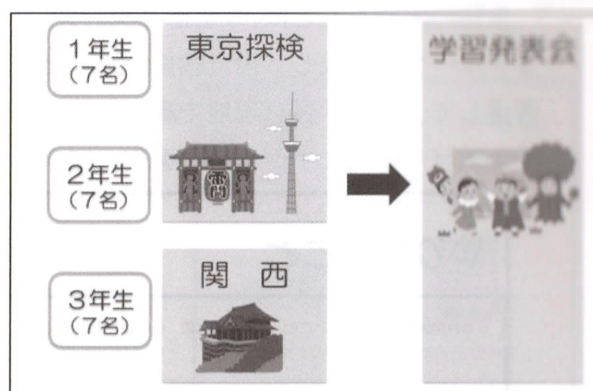


図3 中学部の総合学習

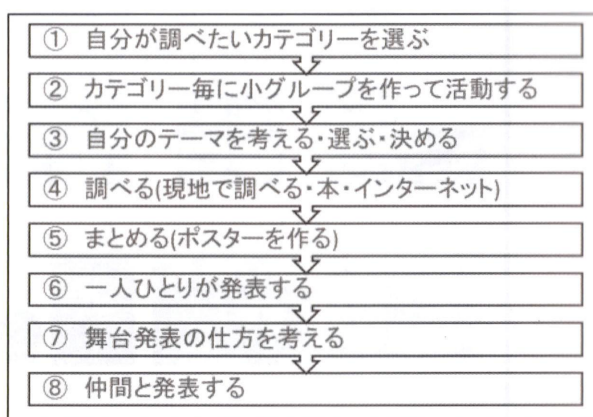


図4 H30「学習発表会」指導計画の考え方

1) 研究授業における「仲間と認め合い仲間と楽しむ授業づくり」について

総合学習の構成や体験する内容などに視点をあてて3年間研究を進めた成果で、自己肯定感を高め、お互いを認め合う姿を育むことで、主体的・協働的な学びにつながる授業を構築することができた。この成果を踏まえ、今年度は、より具体的な生徒の姿として「仲間と認め合い、仲間と楽しむ」ことをテーマにして、研究授業を進めることとした。以下、研究授業について述べる。

研究授業の授業名：総合学習「学習発表会」

題材名：「お台場探検隊！～宇宙グループ～」

① 自分が調べたいカテゴリーを選ぶ

10月末：図5のワークシートを用い、生徒が調べたいカテゴリーを選んだ。

<ねらい>

- ・生徒の実態把握をする
- ・生徒の興味・関心・モチベーションを高める

*中学部版「主体的・協働的な学びを育む授業」のポイントより



図5 興味がある場所

生徒の実態をもとに、「宇宙グループ」(研究授業対象)、「TVグループ」「乗り物」グループの3グループを編成し、担当教員を決めた。その後、11月に、担当教員がグループの生徒の実態を考慮して、校外学習(現地で調べる学習)の下見を行った。

②カテゴリー毎に小グループを作って活動する

やりたいこと		
にほんがくあらいぐん 日本科学未来館でやりたいこと、見たいことに○をつけよう。		
ユニカブ 	アシモ 	うしろの宇宙
ソファ(ベッド) 	うしろの宇宙食 	アンドロイド
ちきゅう地球 	あそび未来の遊び 	プラネタリウム
その他にやりたいこと、見たいこと		

図6 やりたいこと

かいたいもの		
ミドリムシクッキー 463円 	芋餅グミ 378円 	飲むヨーグルナ 259円
芋餅 チキンライス 540円 	芋餅 たこ焼き 540円 	芋餅 プリン 540円
芋餅 お好み焼き 648円 	芋餅 パニラアイス 648円 	その他 しらべてみよう
お金の使い方を考えよう		
ユニカブ(希望) <input type="text"/>	お歴 <input type="text"/>	お歴 <input type="text"/>
		おみやげ(希望) <input type="text"/>
		合計 <input type="text"/>

図7 かいたいもの

12月、同じカテゴリーを選んだ生徒6名で学習を始めた。まず、図6～図8のワークシートを用い、校外学習で「やりたいこと」「かいたいもの」「たべたいもの」を考え、当日の活動とお小遣いの使い方を計画した。

〈ねらい〉

- ・生徒の興味・関心・モチベーションを高める
- ・自発的に授業に参加する手掛かりを設定する
- ・お互いを認め合う機会をつくる

*中学部版「主体的・協働的な学びを育む授業」のポイントより

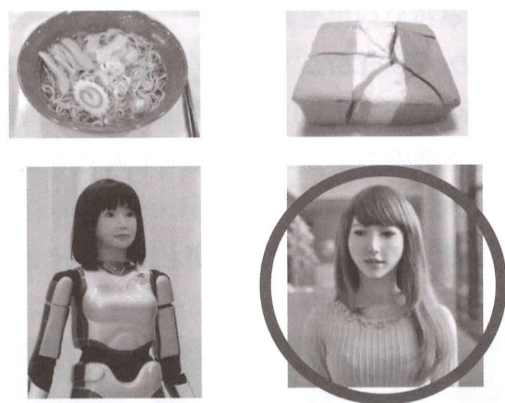
③自分のテーマを考える・選ぶ・決める

次は自分の興味がある事柄を調べ、自分のテーマを考えたり、選んだりして決める活動である。研究授業対象の6名の生徒は、パソコンやタブレット端末を用いて自分で決めた生徒が3名、テーマの候補を自分で2つ選び、どちらにするか自分で決めた生徒が3名である。テーマを決める

たべたいもの		
ざるうどん(大) 100円 	おぼろ蕎麦(大) 100円 	うどん(大) 100円
うどん(大) 100円 	うどん(大) 100円 	うどん(大) 100円
うどん(大) 100円 	うどん(大) 100円 	うどん(大) 100円
DRINK BAR お食事ご注文のお客様 +200yen お飲み物ご注文のお客様 +100yen お飲み物 300yen		
出汁BARのご利用方法 お食事ご注文のお客様にのみご利用いただけます。 お飲み物ご注文のお客様にのみご利用いただけます。 お飲み物ご注文のお客様にのみご利用いただけます。		

図8 たべたいもの



際には、図9のワークシートを用いた。下の例は、テーマを宇宙食とアンドロイドから、アンドロイドに決めた生徒の例である。



➡

12月7日(金)

テーマを考えよう

・テーマにしてみたいもの しらべてみたいもの

アンドロイド

・グループのなまえ

図9 テーマを考えよう

<ねらい>

- ・必然性のある目標
- ・自発的に授業に参加する手掛かり
- ・お互いを認め合う

* 中学部版「主体的・協働的な学びを育む授業」のポイントより

「②カテゴリー毎に小グループを作って活動する」「③自分のテーマを考える・選ぶ・決める」という学習の際、発表した仲間を「褒める」、「拍手」をするといった活動を行った。「褒める」ことが難しい生徒が多いので、「褒める」言葉を皆で考え黒板掲示したが、徐々に掲示がなくても「褒める」ことができるようになった。

以下、皆で考えた「褒める」言葉である。

「すごい」「本当にすごい!」「すっごい!」「すてき」「さすが」「いいね」「感動した!」「最高」「すばらしい!」「がんばった!」

「褒める」こと「拍手」をすることは、とても有効で、始めは遠慮がちな生徒も、徐々に自分を出すことができるようになり、「仲間を認め合う授業」が少しずつ成立し始めた。また、グループの中で、自分と違うことやものを選んだ発表を聞き、自分の考えを広げる生徒もいて、学びが深くなっていった生徒もいた。

④ー1 調べる (本・インターネット)

自分のテーマについて、詳しく調べる学習を行った。調べる方法と発表は、生徒一人ひとりに応じた方法で行った。図10はタブレット端末を用いて皆に説明している生徒で、図11は、ワークシートに興味のある写真を貼った生徒のものである。この学習の際も、毎時間、発表の時は互いに「褒める」ことと、「拍手」を行った。

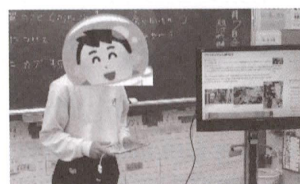


図10 調べたことの発表



図11 テーマについて

<ねらい>・必然性のある目標

- ・お互いを認め合う
- ・仲間から受容、賞賛される喜びの経験

* 中学部版「主体的・協働的な学びを育む授業」のポイントより

④－２調べる（現地で調べる）

*係の人に質問



*宇宙ステーション



*宇宙食を撮影



*アンドロイドを撮影



仲間と楽しむ



* 中学部版「主体的・協働的な学びを育む授業」のポイントより

⑤まとめる（ポスターを作る）

校外学習の前に調べたこと、校外学習（現地）で調べたことを、一人ひとりが右のようなポスターにまとめた。図12は「アンドロイド」をテーマにした生徒のポスターで、図13は「宇宙旅行」をテーマにした生徒のポスターである。他の4人のテーマは、「未来の乗り物」「アシモとペッパーの違い」「宇宙食」「宇宙の生活」である。

<ねらい>

- ・ 必然性のある目標
- ・ お互いを認め合う

*中学部版「主体的・協働的な学びを育む授業」のポイントより

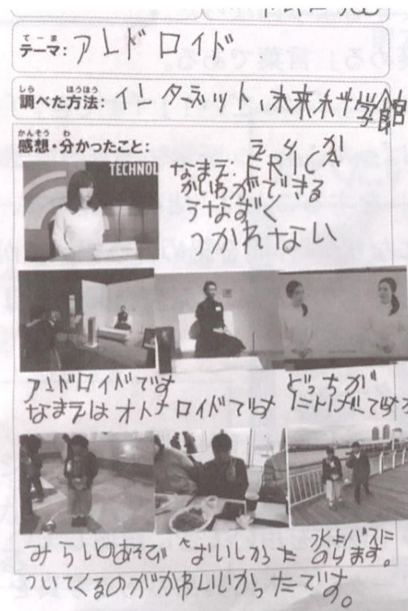


図 12 アンドロイド

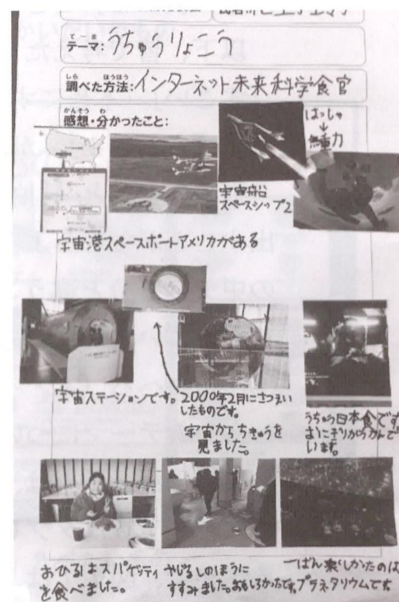


图 13 宇宙旅行

⑥一人ひとりが発表する

⑤で調べた内容を、一人ひとりが発表した。発表は、ポスターを読み上げる生徒、写真を用いながら発表する生徒、タブレット端末を使って発表する生徒等、一人ひとりに応じた方法で行った。この学習は、発表することはもちろん大切だが、発表した後に、仲間から受容され賞賛される経験の場として、とても大切である。図14は、仲間からの賞賛について、より理解してもらいたい生徒に、その場で写真をワークシートに貼り、友達からの賞賛の言葉を教員がメモして本人の理解を促したものである。

〈ねらい〉・必然性のある目標

- ・お互いを認め合う
- ・仲間から受容、賞賛される喜びの経験

＊中学部版「主体的・協働的な学びを育む授業」のポイントより

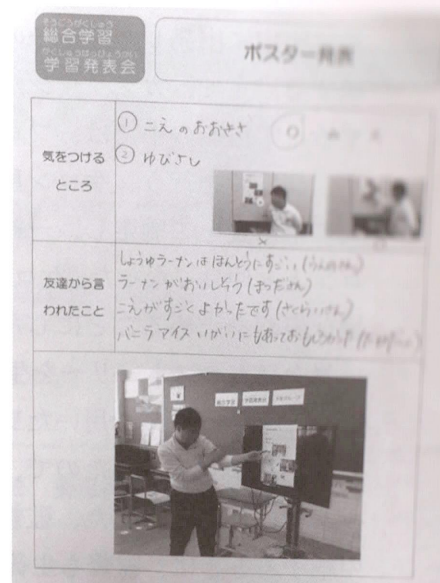


図14 ポスター発表

⑦舞台発表の仕方を考える

1月に入り、舞台発表の準備に入った。図15は「宇宙食を食べてみよう」という授業で、6種類の宇宙食を皆で試食し、感想を発表し合って楽しく授業をした。同じ宇宙食でも、ある生徒は「おいしい」と言い、ある生徒は「まずい」と表現したが、発表する方も聞いている方も、笑顔が絶えない授業であった。図16は「宇宙旅行をしよう」という授業である。一人がVR（バーチャルリアリティ）で宇宙遊泳をする様子を他の生徒がモニターで見て、一緒に遊泳する雰囲気を楽しんだ。皆、自分の順番が来るのを待ちながらも、仲間と一緒に宇宙遊泳している気分になった。このようにテーマに沿った体験をしながら、舞台発表のイメージを膨らませるとともに、仲間と共に活動する機会として設定し、仲間と楽しみながら授業を進めた。

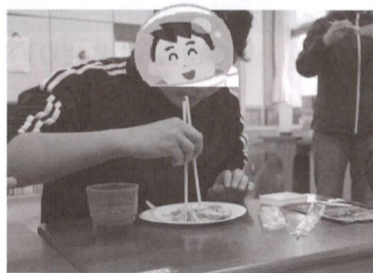


図15 宇宙食を食べてみよう

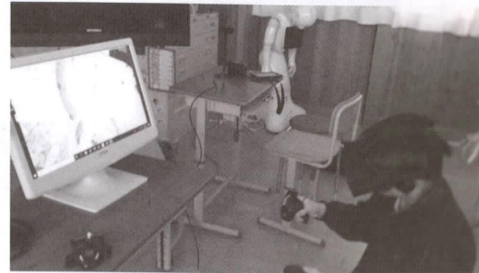
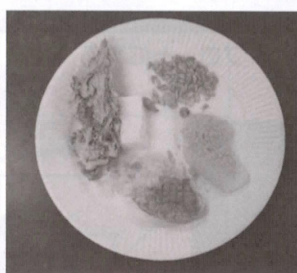


図16 宇宙旅行をしよう

このように授業を進めながら、2月の学習発表会の舞台上でやってみたいことを考えることで、生徒は、自ら、やりたいことが言えるようになっていた。以下生徒が考えた舞台上でやってみたいことである。「アシモを登場させる」「アシモが宇宙でサッカーをする」「宇宙で中継する」「アシモとUSAやりたい」「エリカ（アンドロイド）になってアナウンサーやりたい」「宇宙旅行」「ケロロ小隊」「フロート（ルノーが開発した未来の乗り物）を登場させる」「チョコちゃんを登場させる」「宇宙食を食べる」「宇宙で筋トレする（無重力なので筋力が衰える）」。教員は、これら生徒の要望を取り入れ、台本の作成に入った。主なストーリーは、ケロン軍の地球侵略を阻止するた

めに宇宙に出発したアシモの様子をライブ中継で地球に放映する設定で、カメラマンが撮影しアナウンサーが解説をする。宇宙船の中では、フロートで運んで来た宇宙食を食べ、筋トレを行う。ケロン星に到着したアシモは、ケロン人に宇宙食をご馳走し、一緒にサッカーをすることで、ケロン人と仲良くなった。ケロン人は、人間の優しさに触れ、地球侵略を止めることにした。というものである。図17は舞台発表のストーリーを生徒に提案した後、「配役を考えよう」という授業で用いたワークシートである。アナウンサーに2人立候補したので、台本を直すことで2人のアナウンサーにした。また、監督は教員からの提案で、宇宙で中継するときに、監督も生徒がやって欲しいということを生徒も賛成し、自分の希望と仲間からの推薦がほぼ一致して配役を決めることができた。

総合学習 舞台発表会		とうじょう ひと かんが 登場する人を考えよう	
やりたい 役に ○をつけよう。 名簿			
監督 	カメラマン 	アナウンサー 	
宇宙飛行士 	アシモ 	ケロン人 	
フロートの乗客 	その他 料理人 (りょうりにん) 		

図17 配役を考えよう

次の学習は、「舞台発表に必要な物をつくろう」である。つくった物は、「フロート」「宇宙食のおにぎり」「宇宙船」などで、できるだけ、生徒が調べた通りにつくるようにした。また、つくった後は、フロートに乗って楽しんだり、おにぎりを食べる真似をして楽しんだり、宇宙船の中で無重力のまねをしたりして楽しんだ。下の写真が、その時の様子である。

生徒は、教員が見守るだけで、交代でフロートに乗ったり、引っ張ったりして、実に楽しんでいた。



*フロートづくり



*フロートに乗る



*宇宙食（おにぎり）を食べる



*宇宙船をつくる



*宇宙に乗る

生徒が主体的に舞台発表ができるよう、本人が調べた内容を台詞としてたくさん取り入れた。

台本ができあがり、配役が決まり、小道具や大道具の準備ができ、生徒の気持ちが高まってきたところで、いよいよ、発表の練習に入ったが、生徒が考え判断する場を設定するため、台本の一部を数カ所未定にして練習に入った。図18が台本の一カ所を皆で考えたときの授業の資料（パワー

ポイント)である。「地球を守るためにケロロ星に行こう」という台詞を、監督とアシモ以外の4人のうち、誰が言うか皆で決めた。また、皆で「おー」と言うとき、手はどうするか?を皆で考えた。この場面以外でも、同様に皆で考え判断する場面を設定した。授業で、台詞を言いたい立候補の生徒がダブっても自分達で譲り合ったり、逆に、立候補がないときは、自然に推薦したりすることができた。また、仲間と共に相談(活動)することで、仲間の意見を賞賛したり、お互いの意見を適切に評価したりすることができるようになっていった。

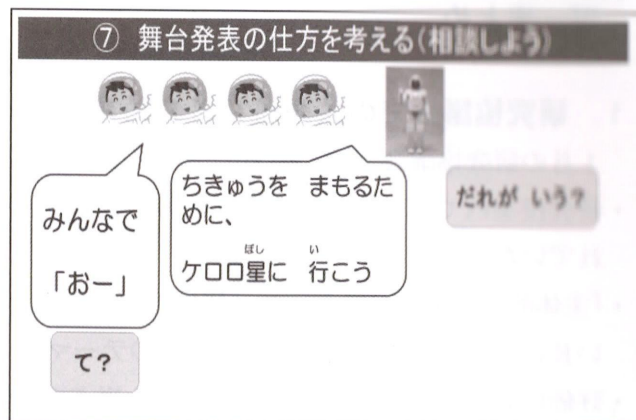


図18 舞台発表の仕方を考えよう

評価場面の工夫として、舞台発表の練習の際に、あらかじめ、自分で目標を決め、練習後に動画を見て自己評価する「ふりかえり」の時間を設定した。「ふりかえり」の後、また練習し、「まとめ」の時間に動画を見て、再度自己評価をするという流れである。図19が自己評価のワークシートと、自己評価を皆で共有したときの一覧である。評価は、作業学習で用いている基準とシールを使った。「金：テレビで活躍できる」「緑：学習発表会で活躍できる」「黄色：直すところがある」「赤：困った」である。

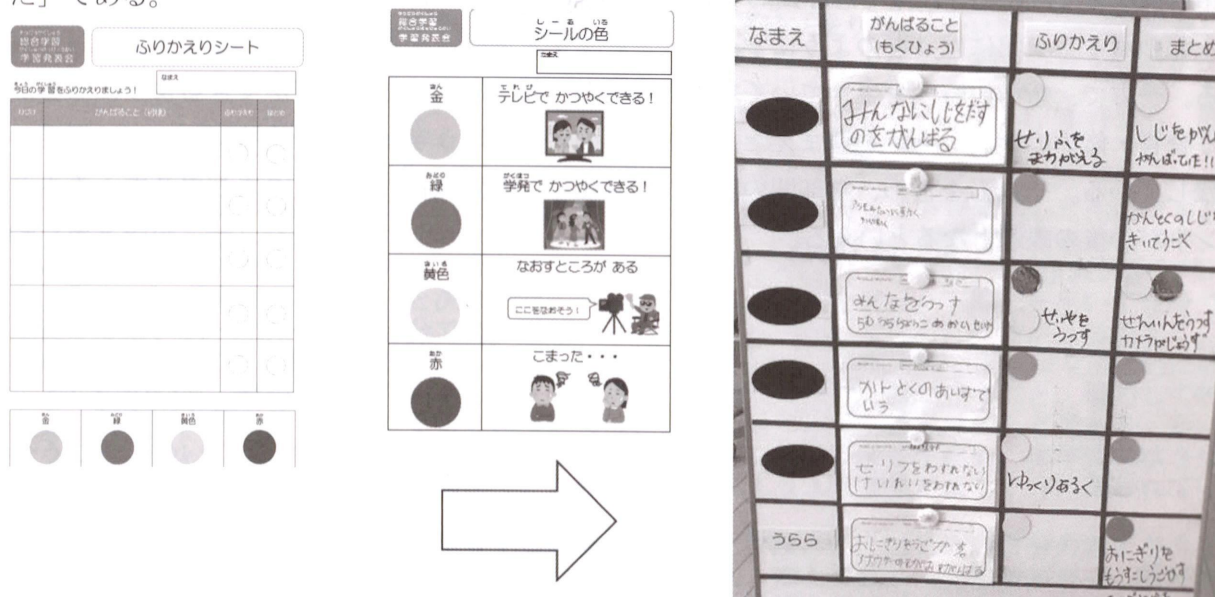


図19 ふりかえり(自己評価)シートと、自己評価一覧

このようにして、仲間と楽しみながらも、自己評価を共有することによって、生徒の中から「〇〇君は金シールではなくて、黄色だと思います」等のような意見が出されるようになり、本人もそれを受け入れる場面が見受けられるようになった。適切に他者評価をしたり、自己評価を修正したりする力が芽生えてきた。

<ねらい>

- ・生徒の興味・関心、モチベーションを高める
- ・自発的に授業に参加する手掛かり
- ・仲間と友に活動する機会の設定
- ・考え、判断する機会の設定
- ・評価方法や評価場面の工夫定



仲間と楽しむ

* 中学部版「主体的・協働的な学びを育む授業」のポイントより

IV. まとめ

1. 研究協議会での共同研究者の助言から

1月の研究協議会では、授業について多くの助言を頂いた。ここに記述したい。

- ・研究授業内でICTが振り返りためのツール、相互評価を引き出すためのツールとして有効に活用されていた。
- ・「主体的・協働的」はかつて「個性化・社会化」とも言われ研究されている、今に始まったことではない長いテーマ。これから先も、永遠のテーマ。
- ・評価は誰が、何を評価するのかという視点が大切。誰が、というのは自分か、他者か。他者であるとするならば教員か、仲間か、それとも第三者か。そして何を評価するのか。この研究授業では「何を評価するのか」の軸が提示されていた。
- ・授業におけるタイムマネジメントという視点。授業時間は無限にあるわけではないので、教育効果を上げるために、長いスパンを見据えた中で今日のねらいは何か、を明確にしてアプローチしていく。

2. 成果と今後の課題

今年度の研究では、過去3年間の研究を振り返りながら、その成果に基づいた授業づくり・授業研究会を行い、中学部版「主体的・協働的な学びを育む授業のポイント」を作成することができた。そこには中学部ならではの発達段階や思春期的な課題に対応したポイントを位置付けることができた。

上記のポイント集には「どのように学ぶか」という学習過程・学習方法に関するポイントが充実している。一方で、新しい時代を生きていく本校の生徒が、将来に向けた今「何ができるようになるか」という資質・能力の検討、それを踏まえた「何を学ぶのか」という学習内容の吟味については研究の余地を残している。それらを含め、学部間の連続性も見越した教育課程の編成、つまりカリキュラムマネジメントが今後の課題となるといえる。

(文責 鈴木)

参考文献

- 東京学芸大学附属特別支援学校 (2016) 研究紀要 第60号
東京学芸大学附属特別支援学校 (2017) 研究紀要 第61号
東京学芸大学附属特別支援学校 (2018) 研究紀要 第62号

総合学習「学習発表会」学習指導案

日 時：平成31年1月25日(金) 10:00～10:50

対 象：中学部1年2名、2年1名、3年3名
(男子3名、女子3名)

場 所：中学部3年教室

指導者：伊東久美子(MT)、齋藤大地(ST1)

岩淵真理(ST2)

1. 題材名「お台場探検隊！～宇宙グループ～」

2. 題材設定の理由

中学部では、学習発表会を総合学習のひとつとして位置付け、自分の興味・関心のあるテーマを選び、学ぶことに興味や関心をもって主体的に取り組むこと、調べる方法を学習すること、仲間と話し合い協力して制作・練習すること、舞台で大勢の前で発表することをねらいとしている。興味・関心があっても、調べたり発表したりすることは大変である。一人では難しくても、仲間と一緒に取り組むなかで、できるようになったり、新しい自分を発見したり、自信をもったりするきっかけになれば良いと考える。また、仲間と活動し発表することで達成感を得て、多くの人にその姿を認めてもらうことにより自己肯定感を高めるようにしていきたい。

生徒たちが主体的に学んでいけるようにするには、生徒にとって分かりやすい入り口を用意する必要がある。2020年東京オリンピックが近付き、外国人観光客からの人気が急上昇しているスポットの一つにお台場がある。本校の最寄り駅から、お台場にアクセスしやすいこともあり、話題のお台場に生徒が興味・関心をもてるよう取り上げ、「学習発表会」を進めていくこととした。「乗り物」「パソコン・ロボット」「テレビ・アニメ」など、お台場には生徒が興味・関心をもつと思われる入り口が数多くある。普段の生活で耳にし、触れる機会があるものを入り口として、自分が一番興味をもって調べられるテーマと出会い、調べたりつくったり、発表できるようにしていきたい。また、この学習をきっかけにして、興味・関心が広がることを願っている。主体的に学べるようにするため、グループは、生徒がお台場で行ってみたい場所をワークシートから選んで編成した。グループは「乗り物」「テレビ」「宇宙」である。生徒は自分の所属グループ決定後、自分のテーマを選んだり考えたりして決め、調べ学習を行った。その後、校外学習としてお台場に行き、グループ別に自分のテーマに沿った様々な体験をしてきた。このように、「テーマを選ぶ(考える)」「調べる」「テーマに沿った体験をする」「まとめる」「発表する」活動を通して、2月の学習発表会でのステージ発表「お台場探検隊！」へと繋げていく。

本グループの生徒は、中学部1年生2名、2年生1名、3年生3名で、ワークシートから「アシモ」「アンドロイド」などを第一希望または第二希望で選び、日本科学未来館に行くことを希望した生徒である。グループの名前は、話し合いにより「宇宙」とした(未来のことでも良い)。事前学習を進める中で、興味・関心に広がりを見せた生徒もいて、6人のテーマは、「宇宙の生活」「宇宙食」「宇宙旅行」「アンドロイド」「アシモ」「未来の乗り物」と決まった。テーマはパソコンやタブレット端末を用いて自分で決めた生徒が3名、テーマの候補を自分で2つ選び、どちらにするか自分で決めた生徒が3名である。このことから分かるように、総合学習のねらいである「テーマを選ぶ」「興味や関心をもって主体的に取り組むこと」について、概ね達成している生徒たちである。しかし、仲間と話し合うこと、協力して練習すること、舞台で大勢の前で発表することについては、苦手としている生徒がほとんどである。特に、話し合うことについては、学級や縦割りの作業班で意見を言うことができる生徒も、本学習ではうまく言うことができない。これは、新しい集団で、自分の考えを言える人間関係がまだ十分に培われていないことが原因と考えられる。

そこで、本題材では、自分の考えを発表する場面をできるだけ設けた。はじめは自分の考えをうまく表出できなかった生徒も、徐々に言えるようになったり、興味・関心が狭かった生徒が自分のテーマと友達のテーマを照らし合わせて感想を述べたり、友達の発表の様子を見て「自分もやってみたい」という考えを述べたりできるようになり、協働的な学びが成立するようになってきた。本時は、さらに協働的な学びが進められるよう、生徒が考えた舞台発表の一場面を、監督を含め、生徒が全部分担して練習する内容を設定した。小道具等も、生徒が調べた内容を使用する。主なストーリーは、地球侵略を阻止するために宇宙に出發したアシモの様子をライブ中継で地球に放映する設定で、この場面を考えた生徒が監督を務める。監督、アシモ、アナウンサー、無重力を表すために宇宙食を浮かばせる役の生徒、カメラマン・・・、一人ひとりが重要な役割を担っていることを通して仲間同士の認め合う力を育てたい。練習では「シーン1」で仲間と思いっきり楽しみ、「シーン2」で自分の役割に対して自己評価を行う。自己評価は作業学習で用いた方法で行う。自己評価をする力がつくことにより、他者評価をする力が付いていくことを期待する。

このようにして、自分たちが調べたことを舞台の上で仲間と楽しむ学習を進めながら、それぞれの役割を大切に認め合うと共に、お互いを肯定的に評価できる力を培って、仲間と認め合う授業をつつていきたい。

3. 目標

- 1) 「宇宙」「未来」に関して、興味のあることを自分で調べる。
- 2) 仲間と楽しんで舞台発表の練習を行ったり、発表に必要なものをつくったりする。
- 3) 互いの役割を意識し、仲間と認め合って練習する。
- 4) 大勢の人の前で（自信をもって）発表する。

4. 指導計画

- 1) 指導計画（全 49 時間＋2 日）

学習内容	時間数
学習発表会について知ろう・グループを決めよう。	3 h
自分のテーマを考えよう・決めよう・調べよう。	2 h
校外学習に行こう（事前、事後を含む）。	1 日＋2 h
テーマについてポスターにまとめよう（発表を含む）。	3 h
宇宙食を食べてみよう。	1 h
舞台発表の準備をしよう。	3 h
舞台発表の練習をしよう。・・・本時（4／5 h）	5 h
舞台発表の準備をしよう・舞台発表の練習をしよう。	30 h
学習発表会本番・振り返りをしよう。	1 日＋1 h

5. 本時の学習（宇宙グループ）

- 1) 本時の目標

- 友達が考えた舞台発表の場面を役割分担して練習する。
- 練習を自己評価する。

- 2) 個人目標

【個人目標☆・手だて○（個別教育計画に関連した目標★・手だて●）】

生徒	実態	個人目標	指導の手だて	関連する個別教育計画
A 3 年 男 子	<p>【本時の役割：監督】</p> <p>・「宇宙の生活」をテーマにしている。舞台発表の場面を考えることができるが、自分の考えを友達に伝えることに自信が無い。本時は本人が考えた場面を練習する。</p> <p>・適切に自己評価できるが、理由を言うことをためらうことがある。</p>	<p>★「シーン2」を監督として進める。</p> <p>★理由を付け加えて自己評価する。</p>	<p>●監督用の台本を手がかりに、練習を進める。</p> <p>●評価の結果のみを発表したときは、その評価に決めた理由も付け加えるよう促す。</p>	大勢の 前で話 すこと ができる。
B 3 年 男 子	<p>【本時の役割：宇宙飛行士】</p> <p>・「アシモ」をテーマにしている。テーマについて調べることはできるが、舞台発表で自分の役割を自分から進んでやることは苦手である。</p> <p>・自分の課題に気付いて、評価する力が付いてきているが、頑張ったこ</p>	<p>☆宇宙船で、無重力の様子をどうしたらうまく表現できるか考える。</p> <p>☆頑張ったことに着目して評価</p>	<p>○どのように動くと、無重力を表わすことができるか、監督の考えと自分の考えを照らし合わせる場面を設定する。</p> <p>○必要に応じて、練習の映像を見せ、頑張ったことに</p>	

	とへの着目が少ない。	する。	着目できるよう、言葉掛けをする。
C 3 年 男 子	<p>【本時の役割：カメラマン】</p> <p>・「宇宙食」をテーマにしている。友達と一緒に活動することが好きで、自分の役割を意識することができる。本時は、カメラマンとして撮影する。</p> <p>・目標に対する理解が不十分で、自己評価が甘く、仲間から指摘されることがある。</p>	<p>☆監督の指示でズームにして撮影する。</p> <p>☆仲間から受け入れられるような自己評価をする。</p>	<p>○ズームにする人を確認して、言葉掛けをする。ズームしやすいように持ち手が付いているタブレット端末のカバーを用いる。</p> <p>○本人が評価しやすい目標にする。評価のシールではなく、目標が達成できたかどうかを問い掛ける。</p>
D 2 年 女 子	<p>【本時の役割：アンドロイドのアナウンサー】</p> <p>・「アンドロイド」をテーマにしている。自分の役割を意識して、進んで活動することは少ないが、友達と一緒にだと活動できる。本時は、自分が調べたアンドロイドを演じる。</p> <p>・自己評価する力が付いてきているが、自分から進んで発表することは少ない。問い掛けに対しては答えることができる。</p>	<p>☆監督の合図でアナウンスをする。</p> <p>☆自己評価をするときに、問われた教員に理由を伝える。</p>	<p>○監督の合図で、原稿を読むことができるよう、監督への注目を促す。</p> <p>○評価のシールを貼る前に、理由を尋ねる。必要に応じて、練習の映像を見せて問い掛ける。</p>
E 1 年 女 子	<p>【本時の役割：ケロロの役】</p> <p>・「宇宙旅行」をテーマにしている。舞台発表の場面で、言葉掛けや合図があると活動できる。本時は、自分が調べた場所、「スペースポートアメリカ」から宇宙船が発射する。</p> <p>・本人は常に良い評価をつけたいが、教員と相談しながら、適切に評価する力が付いてきている。理由などを言うことは難しい。</p>	<p>☆無重力の様子を表わすように、ゆっくり歩く。</p> <p>☆教員と相談して、自己評価する。</p>	<p>○ゆっくり動くように言葉掛けする。無重力の様子を表わしているときは賞賛する。</p> <p>○頑張ったことと、課題の両方を確認し、自分が納得できる評価になるように促す。</p>
F 1 年 女 子	<p>【本時の役割：アナウンサーと宇宙食を浮かばせる役】</p> <p>・「未来の乗り物」をテーマにしている。自分の役割を理解し、友達と協力したり、優しくアドバイスをしたりすることができる。配役決めの際、自分が調べてつくった乗り物「FLOAT」に乗って登場する役と、アナウンサーに立候補した。</p> <p>・自分なりの理由があり、自分に対して厳しい評価をつける。</p>	<p>☆宇宙食のおにぎりを浮かんでいるように動かす。</p> <p>☆頑張ったことに着目して評価する。</p>	<p>○監督の合図があるまで、おにぎりを動かし続けることをあらかじめ確認する。</p> <p>○頑張ったことに着目できるよう、言葉掛けをする。</p>

3) 準備物

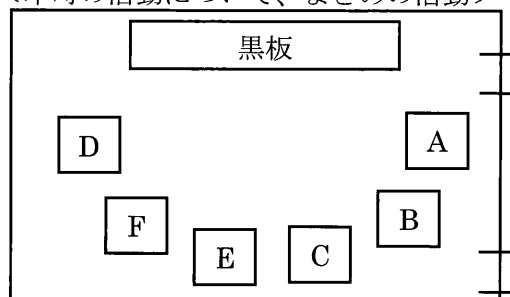
ワークシート、評価用シール、ホワイトボード、モニターテレビ、パソコン、タブレット端末、机、マイク、宇宙船、宇宙食（おにぎり）、衣装

4) 展開

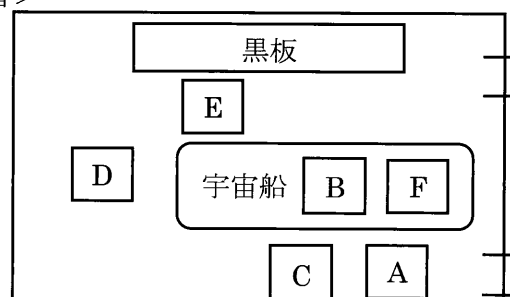
時間	学習活動	指導内容	留意点
10	○挨拶をする。 ○本時の活動について説明を聞く。 ○前時の練習を振り返る。	○授業の始まりを意識する。 ○学習発表会へ向けての気持ちを高める。 ○自分と友達の役割を意識する。 ○「シーン2」の映像を見て、各自の目標を確認する。	○Cが号令を掛ける。 ○見通しをもてるようにする。 ○Aが説明する(MTが補足)。
25	○「シーン1」の練習をする。 ○「シーン2」の練習をする。 ○「シーン2」を振り返る。 ○「シーン2」の練習をする。	○楽しんで活動する。 ○役割に沿って活動する。 A: 監督が練習を進める。 C: タブレット端末を用い、撮影する。 D: アンドロイドを強調してアナウンスする。 F: 人間のアナウンサーが笑顔でアナウンスする。宇宙食の「おにぎり」を無重力のように浮かばせる。 B: アシモが宇宙船でおにぎりを食べる。 E: ケロロも一緒に行くと、宇宙船に乗り込む。無重力の空間で走る。 ○映像を見て、話し合う。 ○シールを用いて自己評価をする。 ○自己評価を意識して活動する。	○MTが進める。 ○できるだけ生徒が進める。 MT A: 監督用の台本を手掛かりに、練習を進める。 F: 監督の合図があるまで、おにぎりを動かし続けることを確認する。 D: 監督への注目を促す。 ST1 B: 監督の考えと自分の考えを照らし合わせるとき、アドバイスをする。 C: ズームにする人を確認して、言葉掛けをする。 ST2 E: ゆっくり動くように言葉掛けする。 ○MTが着目点を確認する。 ○自己評価の結果を監督が集約する。 ○良くなった点を賞賛する。
15	○本時のまとめをする。 ○次回の学習内容を知り、挨拶をする。	○「シーン2」の映像を見て自己評価し、次の時間に頑張りたいことを確認する。 ○今日頑張ったことを振り返る。 ○次回の活動が分かり、意欲をもつ。 ○授業の終わりを意識する。	○必要に応じて、映像を見たり教員と相談したりして自己評価をする。 ○自己評価の結果を監督が集約する。頑張ったことを話す。 ○MTが自分達で練習したことを肯定的に評価する。 ○号令を掛ける生徒: C

5) 配置図

<本時の活動について、まとめの活動>



<練習>



6) 評価

(1) 個人目標の評価

生徒	個人目標	評価	コメント
A	★「シーン2」を監督として進める。 ★理由を付け加えて自己評価する。	○ ○	
B	☆宇宙船で、無重力の様子をどうしたらうまく表現できるか考える。 ☆頑張ったことに着目して評価する。	○ ○	自分で考えて表現していたが、監督の考えと照らし合わせる場面を設定できなかった。
C	☆監督の指示でズームにして撮影する。 ☆仲間から受け入れられるような自己評価をする。	○ △	振り返りで、「金」シールと自己評価したが、仲間の意見で、「緑」シールに評価を変えた。
D	☆監督の合図でアナウンスをする。 ☆自己評価をするときに、問われた教員に理由を伝える。	○ ○	
E	☆無重力の様子を表わすように、ゆっくり歩く。 ☆教員と相談して、自己評価する。	○ ○	
F	☆宇宙食のおにぎりを浮かんでいるように動かす。 ☆頑張ったことに着目して評価する。	○ ○	

評価の目的 ・授業における個人の目標が達成できたかを評価する。

・次時の個人の目標設定の資料とする。

評価基準は、○△×の3段階で行い、コメントがあれば加える。

(2) 授業の評価

項目	評価内容	評価	コメント
目標	1. 本時の目標は達成できたか。	○	
	2. 本時の目標は適切であったか。	○	
活動	3. 本時の目標にあった学習活動であったか。	○	
手だて	4. 教材が適切であったか。	○	
	5. 教材の提示方法は適切であったか。	○	
	6. 教材の使い方は適切であったか。	○	
	7. 教示方法は適切であったか。(わかりやすさ、口調など)	△	評価の視点がわかりにくかった。
	8. 子どもへの援助方法は適切であったか。	○	
	9. 集団の統制は適切であったか。	○	
	10. 子どもの反応の捉え方は適切であったか。	○	
TT	11. 教員間の役割分担とその連携は適切であったか。	○	
学習環境	12. 本時の時間配分は適切であったか。	△	次時の目標を決める時間がなかった。
	13. 場面の設定は適切であったか。	○	

評価の目的 ・本授業を評価することによって、次の授業の資料とする。

評価基準は、○△×の3段階で行い、コメントがあれば加える。

(資料2) 「平成30年度 中学部年度末アンケート『学習発表会』(保護者20名中16名提出)

学 習 発 表 会	時間数	<input type="checkbox"/> 多い <input type="checkbox"/> ちょうどよい 15 <input type="checkbox"/> 少ない <input type="checkbox"/> その他 () 未記入1 /16
	内容	<p>良かった内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとの発表なので、中学部みんなでの演奏もあって良かったです。 ・ガチガチに決まっておらず、生徒の自主性にまかせてくれたところ。 ・3グループに分かれたのが、総合学習からなので、取り組みが難しいようにも見えます(受ける側の問題?)。 ・最近のはやりものから、懐かしい歌の設定で、とっても楽しかったです!! ・流行の曲等も入っていて、観ていて楽しいです。 ・当日、笑顔でやっていたと聞き、良かったと思いました。本人は本番に弱い子だったのですが、周りのお友達の優しさで素直に育っています。先生方にも感謝しています。お疲れ様でした。私の方が照れてしまう内容でした。みんな成長したと感じられました。自分らしさが出ていて素敵でした。 ・予行に比べて、子ども達の声が大きかった。子ども達が力を合わせて演じていた。どの子どもも主役となり注目が集まるような台本と構成になっており、親としては感無量だった。 ・台本を最初に頂いたので、劇の内容が分って良かったです。どんなものを用意すれば良いのかイメージしやすかったです。 ・レインボーブリッジの背景が圧巻でした。 ・毎年お笑いが入っているのが楽しみです。 ・まとまっていて、良かった。 ・助け合いながら進めていっているのも、とても良かったです。 ・生徒一人ひとりがとても生き生きとしていて感動しました。先生方が、子ども達のそれぞれの良さを引き出し育てていることに感謝します。 ・全員で歌ったうた、背景のデザインがとても良かったです。それぞれ出番があり、頑張っている姿がみられて感激しました。 ・子ども達の興味ある内容を用意して頂いたお陰で、本人達も楽しく自信を持って演じていたのが、見ていても分かり感動しました。 ・歌も内容に合っていて、人気のある曲だったので、本人達も嬉しそうでした。 <p>やってほしい内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月~少しずつ学発に向けた心構えを子どもにさせておいても良いかなと思いました。 ・全員が同等に活躍できる会をすることは難しいことなのではないでしょうか。 ・来年は東京オリンピックのテーマでやると盛り上がりそうですね。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみにしていた学発、みなさん、ありがとうございました。また、来年も楽しみにしています。素晴らしかった! ・先生方の御指導に感謝致します。 ・楽しかったです。 ・中学部での最後の学習発表会でしたが、今までで一番真面目に取り組んでいる姿がみられ、成長を感じることができました。先生方のご指導のおかげです。ありがとうございました。 ・毎年、楽しみな(そしてちょっと心配な)学習発表会。今年も素晴らしいででした。先生方、ありがとうございました。 ・大成功の陰で、準備や指導面で先生方は相当大変だったのだと思います。本当にありがとうございました。 ・子ども達にも手ごたえがあったのが、親にも分かりました。このまま、自信を持って次へと進んで欲しいと思います。